

# SCHEMA ST4 導入のご提案

— 多言語ドキュメント制作に向けたCCMSの決定版 —

NAVIX

MULTILINGUAL SOLUTIONS / MULTIMEDIA PUBLISHING

# 目次

---

Quanos GroupとST4	P3
ST4の特徴	P4
ST4のワークフロー	P5
各種機能について	P6~P8
レイアウトデザイナー	P9
SCHEMA CDS (Content Delivery Suite)	P10~P11
CCMSとしてのST4の優位性	P12
Quanos Groupと NAVIX	P13

## ご紹介

SCHEMA ST4は、ドイツ・ニュルンベルクに本社を置く[Quanos Group](#)が開発したソフトウェアです。SCHEMA社は、ITとドキュメンテーションの専門家によって、これまでの形にとらわれない新しいドキュメント・ソリューションを提供し、電機・機械・精密機器、自動車、医療・医薬関連、IT・通信機器、プラント、ソフトウェア、金融、広報宣伝関連などさまざまな分野で導入され、CMS（コンテンツ マネジメント システム）アプリケーションとして欧州では不動の地位を築きつつあります。

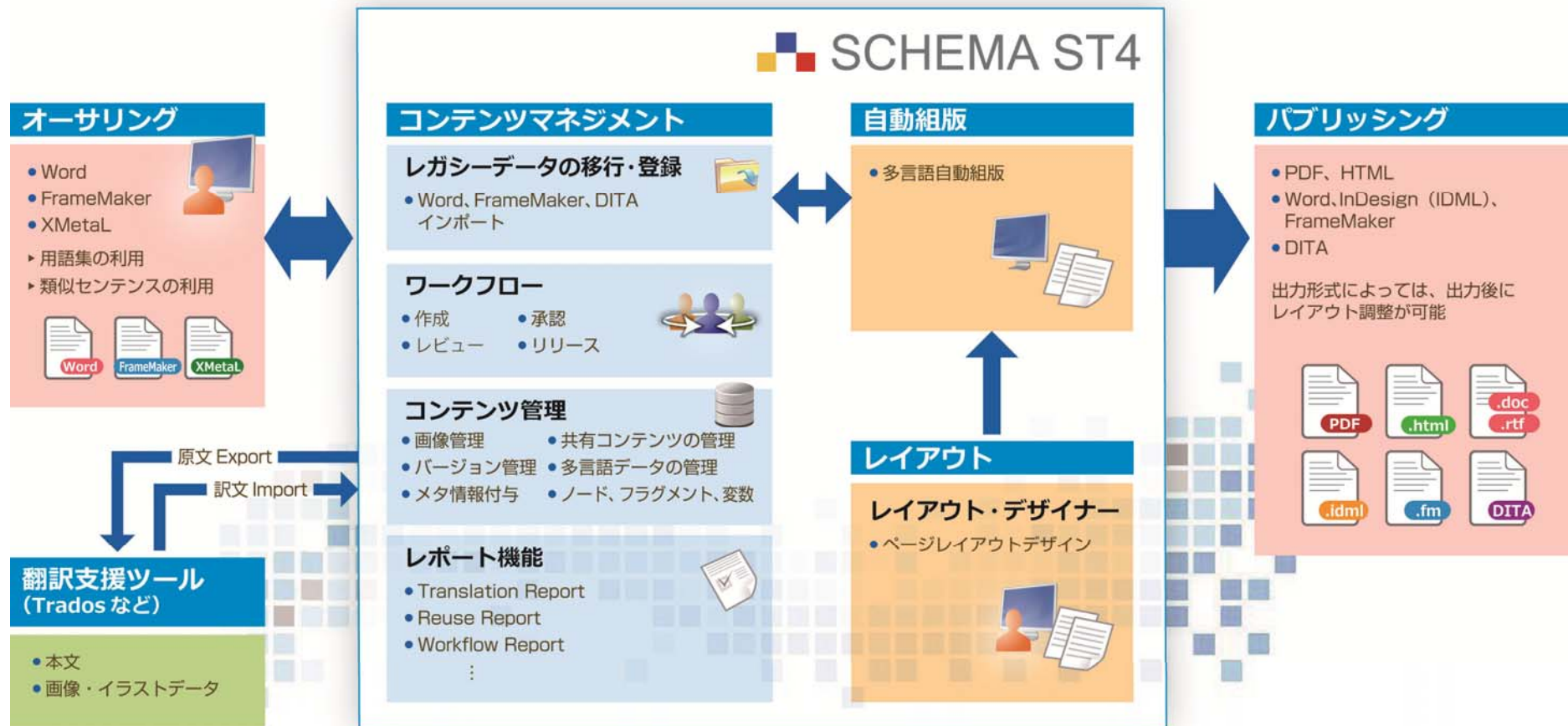
## 概要

SCHEMA ST4は、レガシー（既存）データを活用しながら構造化し、複雑なドキュメントを効率よく制作できるCCMS（コンポーネント コンテンツ マネジメント システム）であり、多言語ドキュメントの作成で課題となる、翻訳管理や工程管理に威力を発揮する最適なソリューションツールです。多言語社会の欧州で開発されたシステムであるため、言語数が多く複数の出力形式が必要なドキュメントの作成、バージョンの異なる類似コンテンツの管理などを効率的におこなえ、時間と経費の削減に有用です。

- ① オーサリングツールにはWord、FrameMaker、XMetaLが使用可能
- ② Tradosなどの翻訳支援ツールとも連携
- ③ 翻訳の進捗、コンテンツの再利用先などが簡単にわかる各種レポート機能
- ④ 同じコンテンツを複数のドキュメントで共有し再利用可能
- ⑤ 新旧のバージョン間の差異や類似モデルの差異を把握できる比較機能
- ⑥ 翻訳が必要なコンテンツのみを自動的に抽出し、XML形式でエクスポート/インポート
- ⑦ 画像の引出し線やキャプションをレイアウト可能で、画像のテキストも本文と一緒に翻訳可能
- ⑧ PDF用とHTML用のスタイルシートが作成できるレイアウトデザイナーを内蔵
- ⑨ PDF、HTML、Word、InDesign (IDML) 、FrameMaker、DITAファイルに出力可能
- ⑩ 既存文書 (WordやFrameMakerファイル) のインポートを標準サポート

# ST4のワークフロー

SCHEMA ST4が複雑な多言語ドキュメント制作を容易にします。

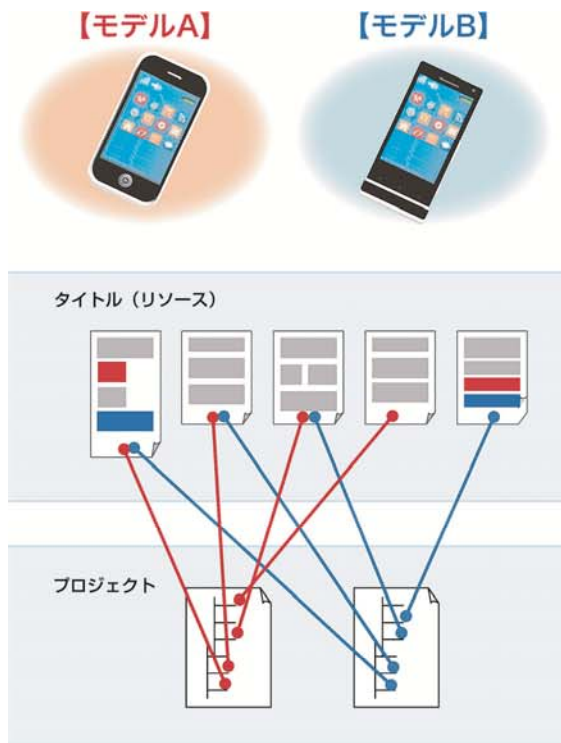






## コンテンツ管理

同じコンテンツを複数のドキュメントで共有、再利用できます。また、条件処理、変数を使用し、類似する構成のドキュメントを簡単に管理できます。各コンテンツはワークフローによる制御が可能で、コンテンツごとに状態を管理できます。プロジェクトの最適化とバージョン管理も自動で行なわれます。



視覚的に分かりやすい形式で管理可能

The screenshot shows a comparison matrix titled 'リアントマトリックス'. The columns are 'TurboCo-Beauf-' and 'TurboCo-Ges-Hic'. The rows list various document sections like '操作', '技術解説', and 'タービンプラント'. A summary window is overlaid on the bottom right, showing a reuse rate of 86.6% and a bar chart.

概要	再利用	再利用なし	合計	ワード数
1プロジェクト	86.6%	13.4%	507.0	56.0
	439.0	68.0	Σ 507	Σ 56
	Σ 439	Σ 68		

再利用率: 86.6% (86.6%) 13.4%

使用数: 1.9 Σ 507

再利用ワードの利用率数: 240

使用数別のワード数:

1	2	3	4	5
62	100	41		

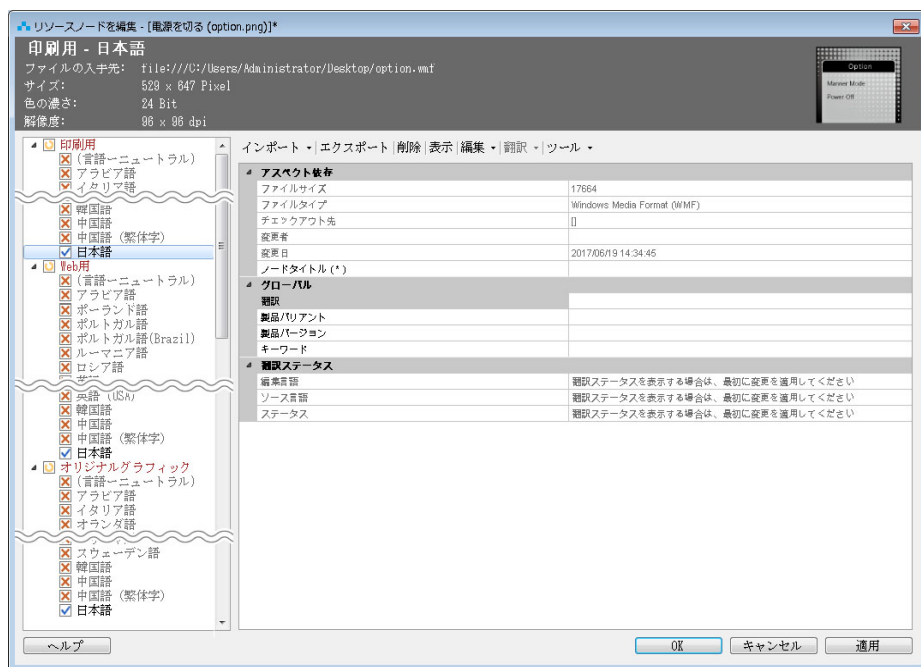
構成が類似しているドキュメントの差分をタイトル単位で管理可能

どのくらい構成が類似しているか(再利用率)も確認可能

## 各種機能について

### 画像管理

印刷用、ウェブ用、オリジナルグラフィックの3種類の用途に分けて画像を管理できます。  
また、それぞれの用途で言語による違いも管理できます。



### メタ情報のカスタマイズ化

デフォルトでは管理できない情報でも、メタ情報を拡張して管理できるため、カスタマイズ次第でオリジナルの管理方法を実現できます。

### 検索機能

コンテンツの作成者が、細かく検索条件を設定して目的のコンテンツを探すことができます。

さらに複数の検索条件を組み合わせることも可能です。

### 比較機能

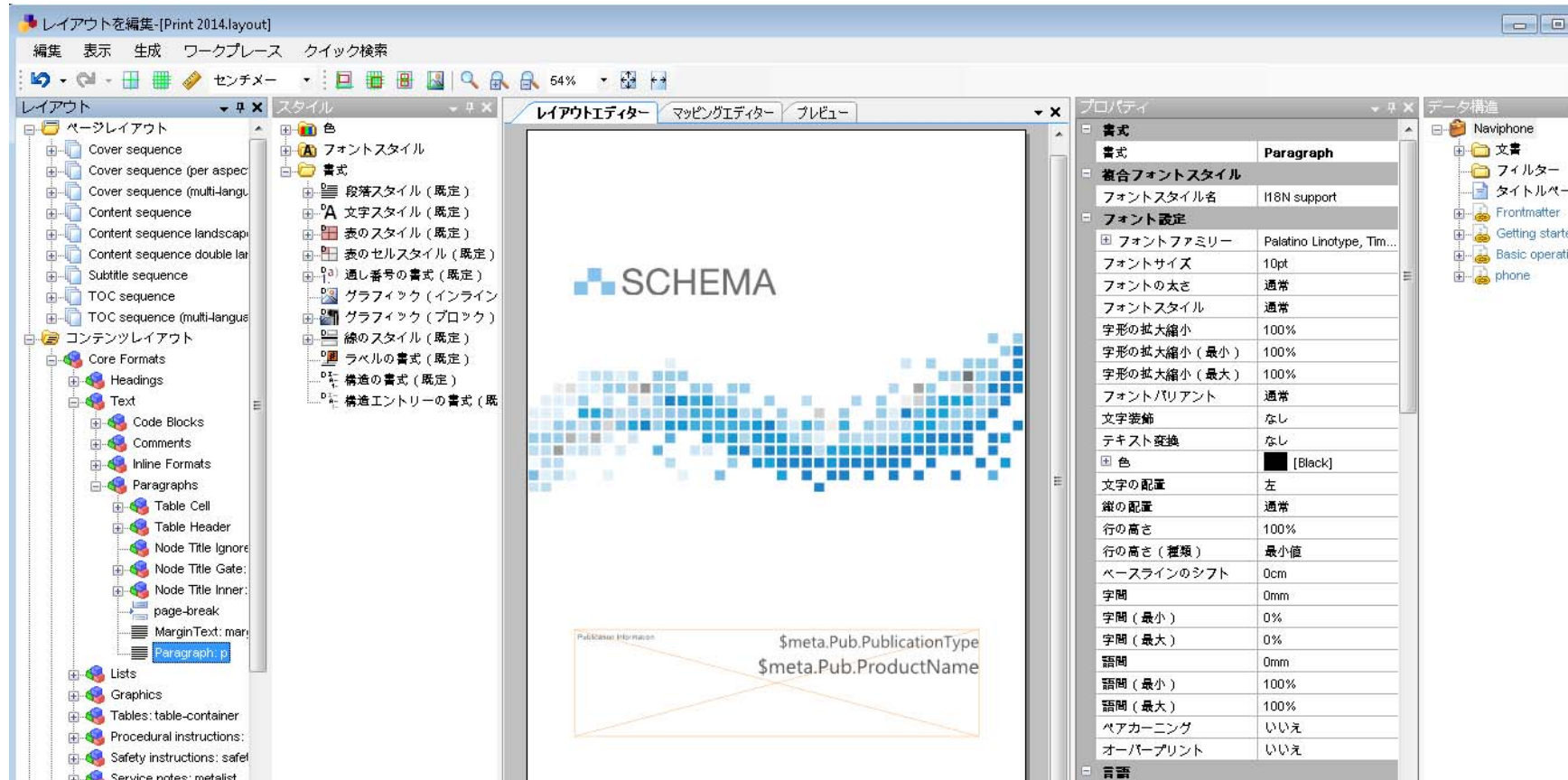
比較ビュー機能を使用して、新旧二つのバージョンの比較ができます。同一のプロジェクトのバージョン間だけでなく、異なるプロジェクト間の比較もできます。

### グループ機能

複数の画像やテキストをグループとして登録することで、文章は同じで画像だけが異なる類似のドキュメントや、文章が多少異なる類似機種の管理がしやすく、用途に沿った画像やテキストだけを抽出・入れ替えをして複数のコンテンツを作成できます。

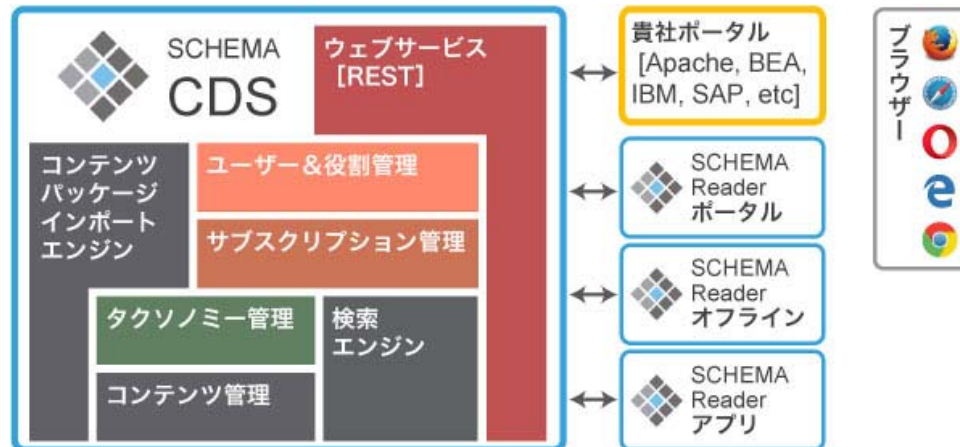
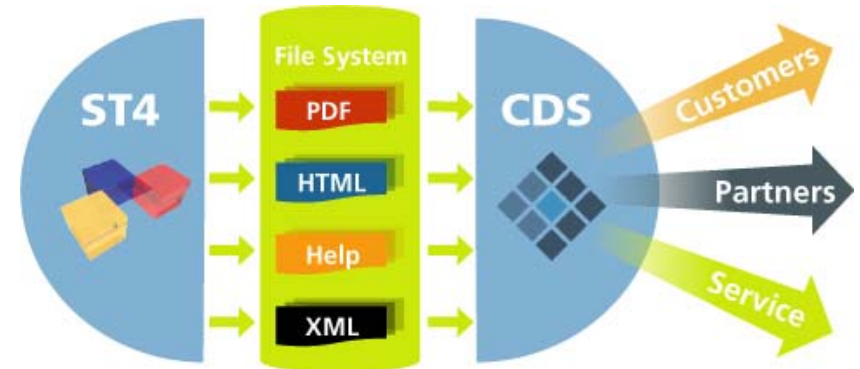


PDF用スタイルシートには**PLD**（ページレイアウトデザイナー）、HTML用には**OMD**（オンラインメディアデザイナー）を使用することで、難しいプログラミングは必要とせず、効率的にスタイルシートの開発ができます。そしてコンテンツ作成や翻訳が完了次第、すみやかに各種用途に応じた自動組版を実行することができます。



# SCHEMA CDS [Content Delivery Suite]

SCHEMA CDSは、オンライン/ オフライン環境でのコンテンツ配信のための ITインフラストラクチャーです。  
CDSと連携することで、ST4の情報をWebポータルやタブレット、スマートフォンなどに展開できます。  
どのような使用シナリオであっても、ユーザーは自動アップデートされた情報にアクセスでき、素早くスムーズに目的の情報を手に入れることができます。



## 機能概要

- コンテンツ配信  
HTML (Microsoft Help Viewer Archive) / PDF / Microsoft Office 他あらゆるファイルフォーマットが配信可能
- Content Connectorによるコンテンツのインポート  
CMSで編集・管理しているコンテンツをワンクリックでダイレクトにSCHEMA CDSへ登録可能。また、サードパーティーシステムからのアップロードに対応
- 内部ユーザー管理と認証
- サブスクリプションとアクセス制御
- フィードバックと分析

## SCHEMA ポータル

CDSに、登録された情報が閲覧できるポータルサイトです。

- ファセット・ナビゲーションによるしぼり込み検索
- サブスクリプション  
(購読者層の設定やアクセス権によって最適な情報を提供)
- 管理者向けのインターフェース  
(パッケージ登録・管理、配信方法、スコープ、ファセット、ユーザー管理、フィードバック、利用状況解析、システム基本設定)
- タクソノミーを活用した情報検索を実現  
ファセット検索：指定したコンセプトに基づきパッケージの中身の検索条件を追加  
フィルタリング：コンセプトに従って、パッケージの中のトピックを選別（初心者向けと熟練者向けのトピックなどによる選別）
- 指定されたコンセプトに沿った全文検索
- Content Connector SCHEMA ST4の利用により手軽にCMSのタクソノミーを利用可能

## SCHEMA Reader

タブレット・スマートフォンからアクセスするためのアプリです。（オフラインアクセス含む）

### 特徴

- 各種のユーザーインターフェースを提供
- PDF-Viewerを統合
- Microsoft Help Viewer 形式のパッケージコンテンツのサポート
- 暗号化されたCDSコンテンツのサポート
- ブランディング  
(色、アプリケーション名、ロゴ、GUIのローカライズ等)
- マルチメディアコンテンツのサポート  
SVG (SVG アニメーションを含む)、PNG、JPEG、WebP  
ビデオフォーマット OGV、WebM  
AndroidやiOSに対応

ST4はドキュメントを効率的に操作運用する目的で開発されたCCMS（コンポーネント コンテンツ マネジメント システム）です。その特徴と機能はこれまでに掲げる通りですが、基本的なメリットは一般的なソフトウェアの操作と同様に、特に専門的知識のないスタッフでも機能を身につければ容易に扱えることです。

また、短期的なサイクルでバージョンアップも行い、ユーザーの要望にも柔軟に対応し、必要に応じ細かな改訂も随時なされます。つまり一般のCMSのシステムによくあるような、余分なカスタマイズの手間と費用もほぼ発生しません。

また、2000年にOpen Tool KitとしてIBM等によって開発されたXML文書規格であるDITAは、今日まで有為な企業で取り組みが続けられています。ただ、DITAのコンテンツを各種の文書として出力できますが、情報をXML側に持たせる“XML-first”という特異なパラダイムを有します。

これに対して、ST4は独自のXML形式を採用しており、データベース側に情報を持たせる“Database-first”の考えです。それまでQuanos Group が数多くの多言語マニュアル制作支援で培った知見を基にして、完成形としてのパッケージソフトとして実現しています。

このためST4では、コンテンツ編集、自動組版、翻訳手配、改訂対応、レイアウト設計など、コンテンツ制作に必要な機能を完全に統合しています。

DITAはオープンソースであるため、初期投資はかからないとしても、リサーチや学習に時間を要します。また、バージョンアップまでのリリース期間が長く、その間、開発者への負荷も大きくなり、結果的にコストの増大を招きがちです。一方でST4は、ドキュメントスタッフが容易に取り組める形式を備え、早期に立ち上げが可能で、最終的にコスト削減に寄与します。



ナビックスは日本におけるST4の最初の代理店で、ゴールデンパートナーに指定されています。それは当初より、Quanos Groupと一体となってこのソフトウェアの日本語化に取り組み、実際に社内で使用しながら不都合があれば改善を求め、さらにはユーザーの要望にも応えながら改良を重ねてきたことによります。

弊社は本来、多言語ローカライズとドキュメントの制作会社ですが、2000年代に入り自動組版が課題となり、各社の自動組版システムを検証しました。しかし、弊社の実際の業務の中で使用してみると、初期の構築には相応のものがあるとしても、とりわけ多言語の展開時に難が多く、そこで半ば自社開発の可能性を含めて、平成22年（2010）にソリューション事業部を設立しました。

当時、業界で注目されていたDITAのシステムの取り組みから始め、弊社がリーダーシップを取ってDITAセミナーを2年近く開催しましたが、短期的に成果を出すことが難しいことがわかりました。その中で、ここにご紹介するSCHEMA ST4に触れてみると、まさに多言語ローカライズに適したシステムであることがわかり、これを日本にも普及する必要があるとみて、日本で最初の代理店となりました。

ST4は弊社自身が実際に運用しながら、導入していただいたお客様からの声も合わせて、日本の代理店として直接Quanos Groupに問いかけ、日々改良の取り組みを重ねてきております。

弊社としてはお客様のドキュメント制作部門にこのST4を導入していただければ、運用開始に向けてのデータ移行からスタイルシートの開発に至るまで、そのサポートにはこれまでも十分な実績を持ちます。

また別途、ご相談によっては、弊社自身がST4を使って制作を請け負わせていただくことも可能です。



## 株式会社 ナビックス ソリューション事業部

〒141-0031 東京都品川区西五反田8丁目3-6 TK五反田ビル8F  
TEL : 03-3493-1691 FAX : 03-3493-1690  
E-mail : solution@navix.jp URL : www.navix.jp